

筋層浸潤性膀胱癌の治療実態に関する 医師へのアンケート調査

目的

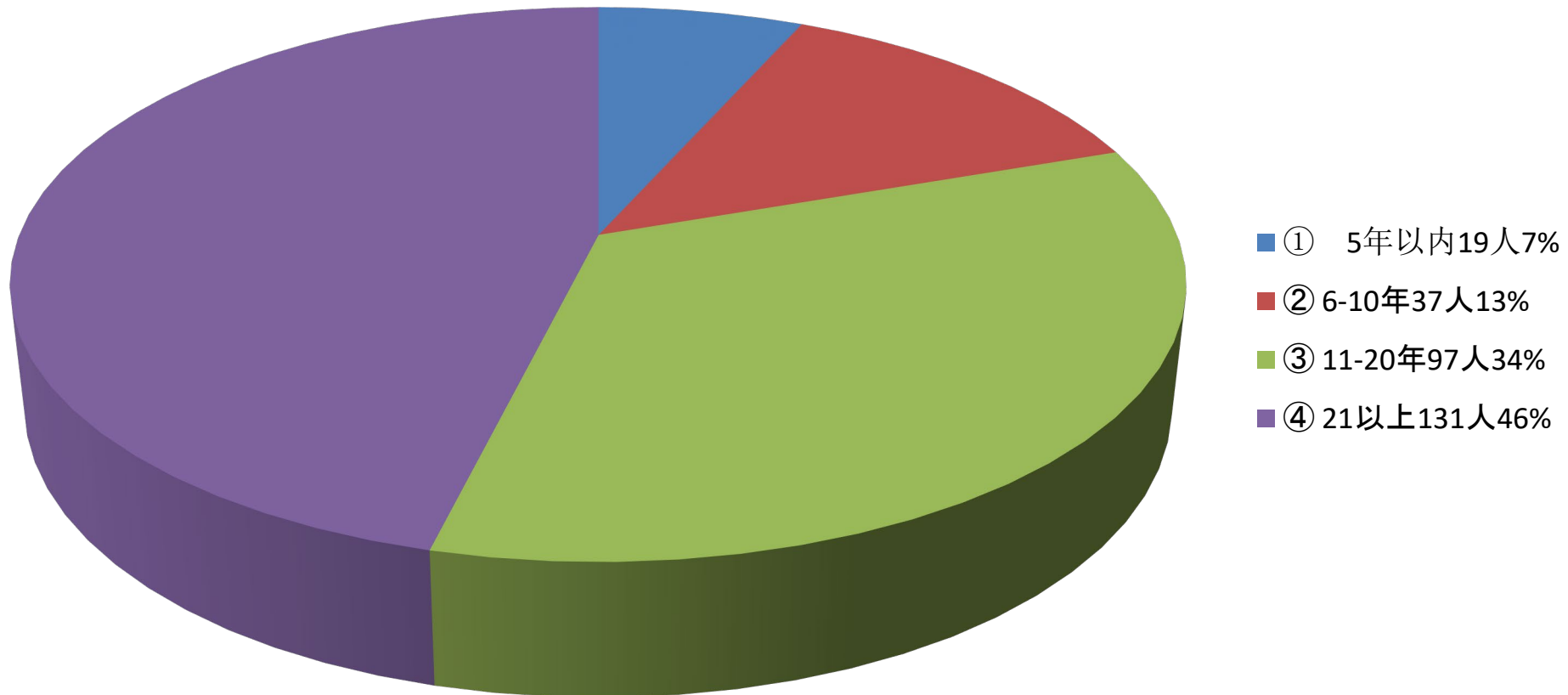
- 筋層浸潤性膀胱癌の治療について、第一線の診療現場における実臨床での治療経験に基づいた泌尿器科医の主観的意見を収集し、実態を把握する。

方法

- 2018年5月から6月の期間に、大阪大学医学部、大阪市立大学医学部、大阪医科大学、和歌山県立医科大学、神戸大学医学部、京都府立医科大学、関西医科大学、京都大学医学部、滋賀医科大学、奈良県立医科大学、兵庫医科大学、近畿大学医学部およびそれらの関連医療施設に勤務し、膀胱癌診療に従事する泌尿器科医を対象に、筋層浸潤性膀胱癌の治療に関する16の質問からなるアンケート調査を行った。

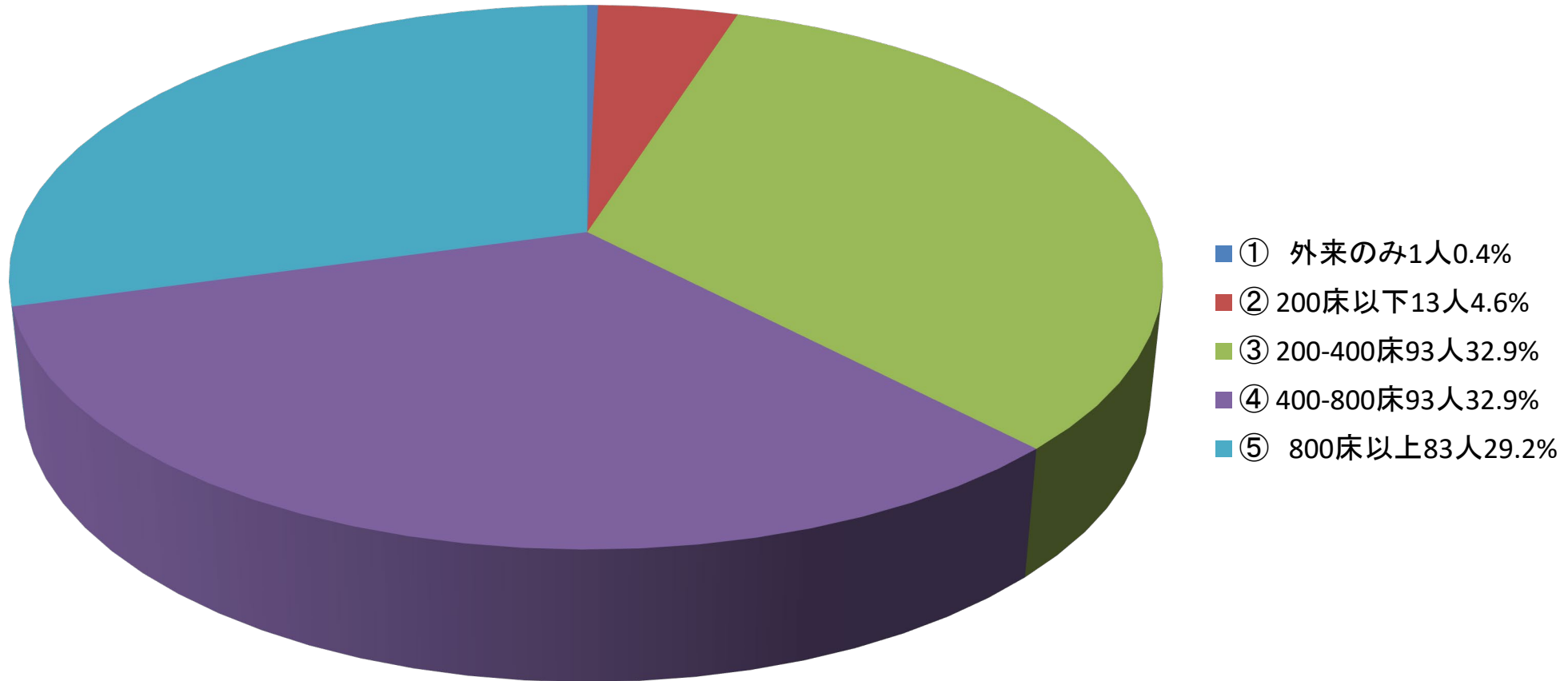
アンケートの背景

Q1. 卒後年数を教えてください.



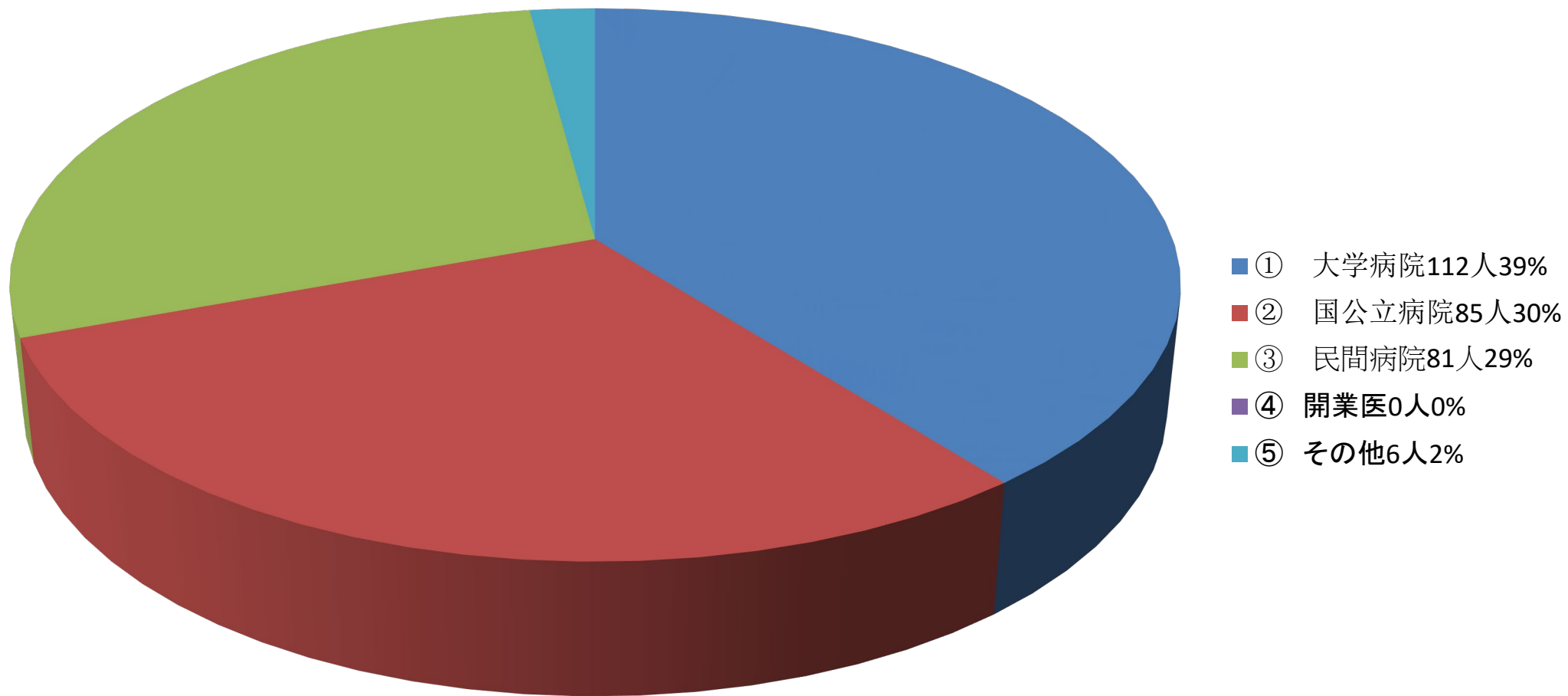
アンケートの背景

Q2. 所属施設の規模



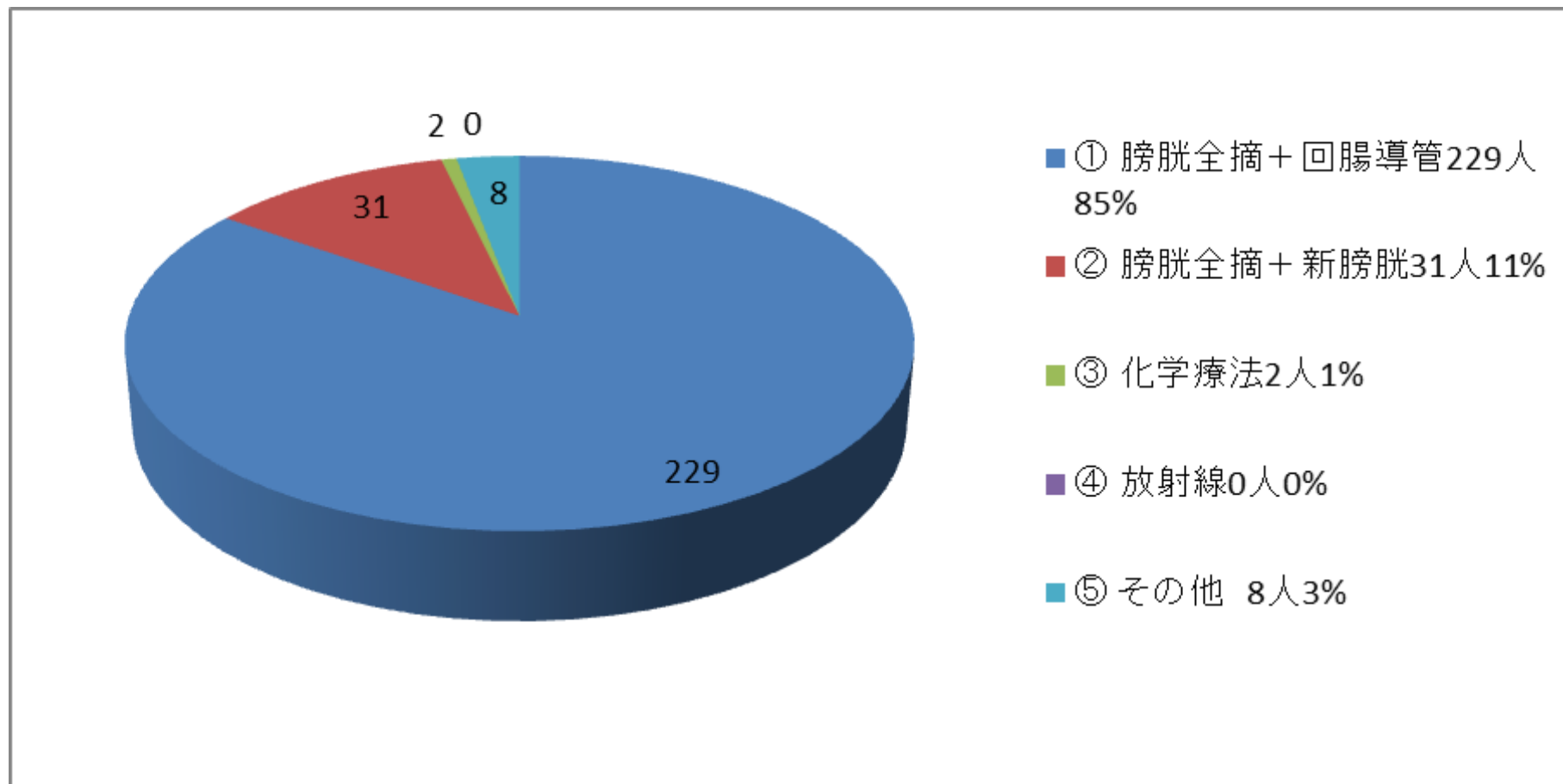
アンケートの背景

Q3. 所属施設

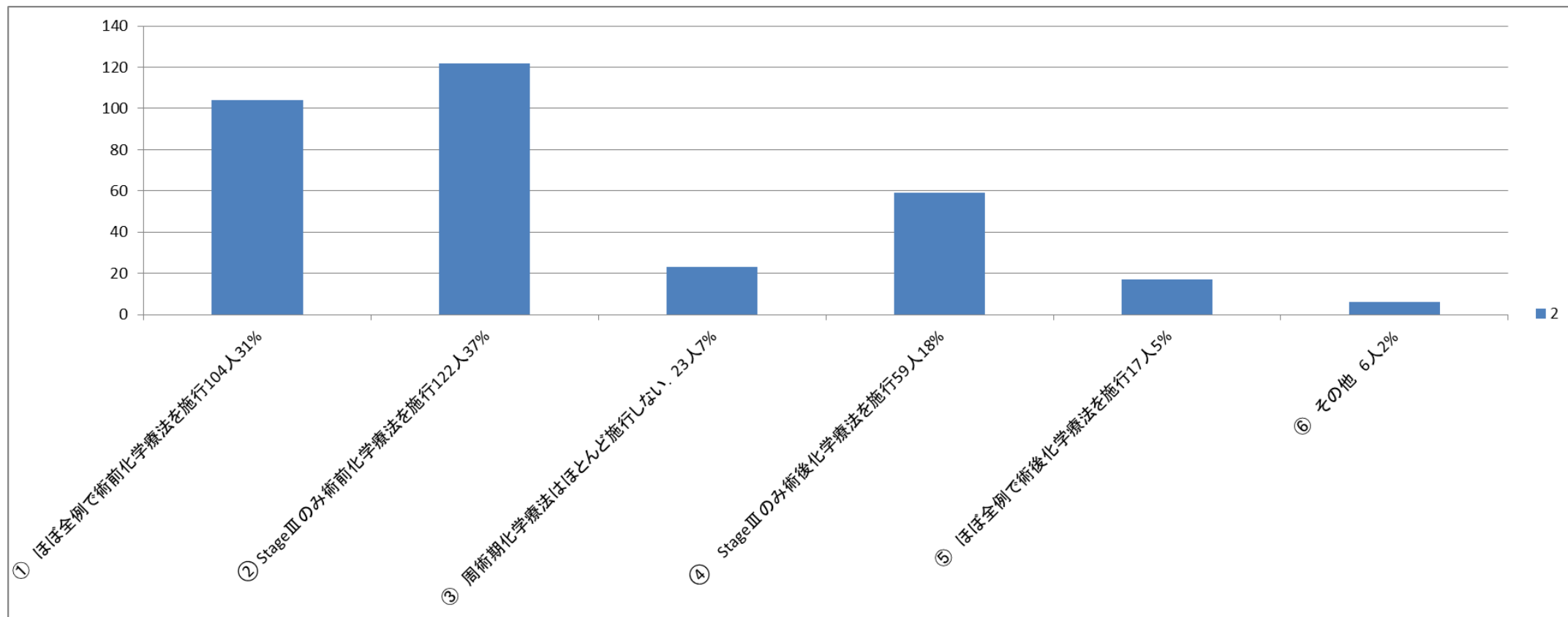


筋層浸潤性で転移を認めない膀胱癌(STAGE II , III)の治療について

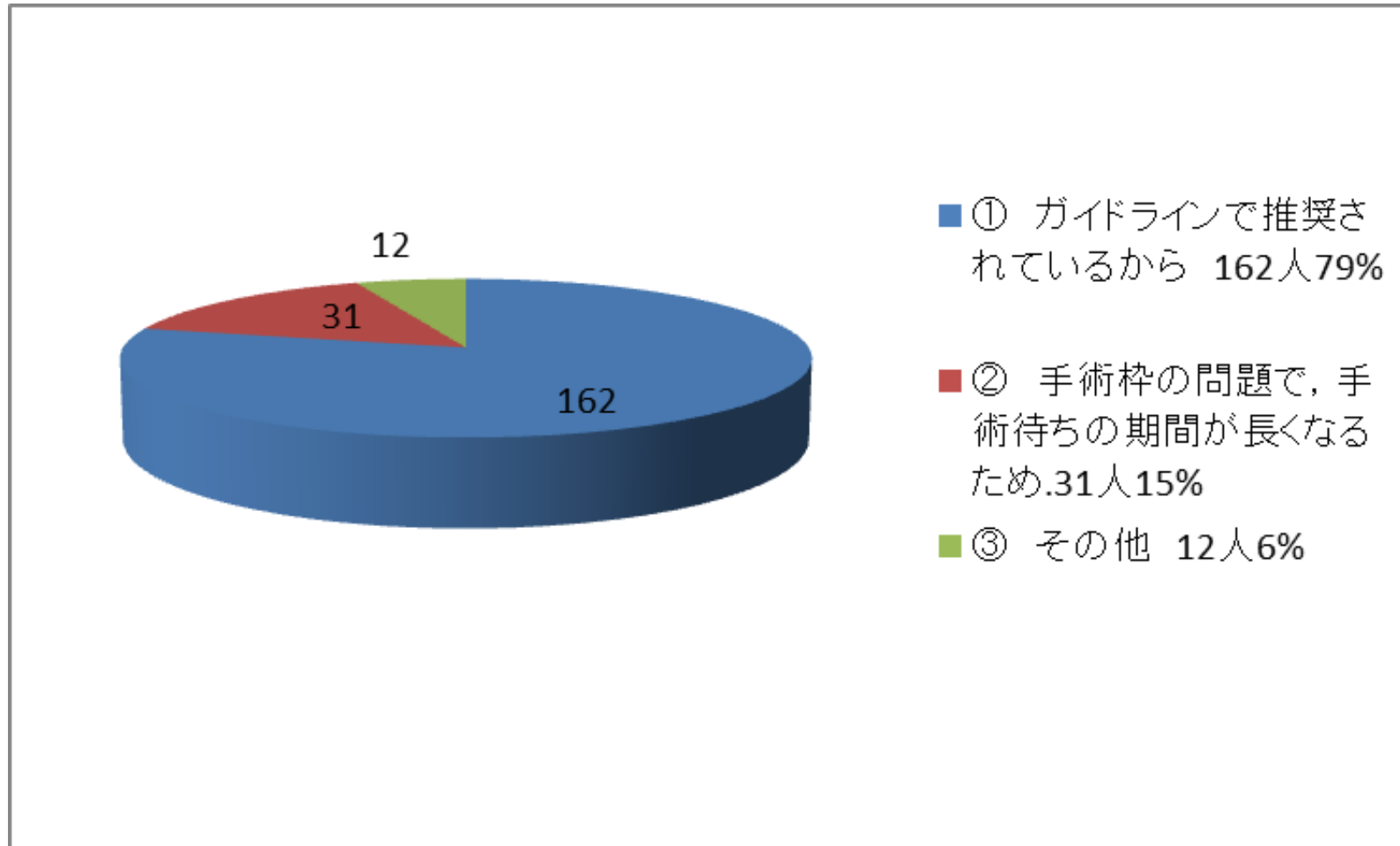
Q1. Stage II , Stage III の膀胱癌における, 第一選択となる標準治療は?



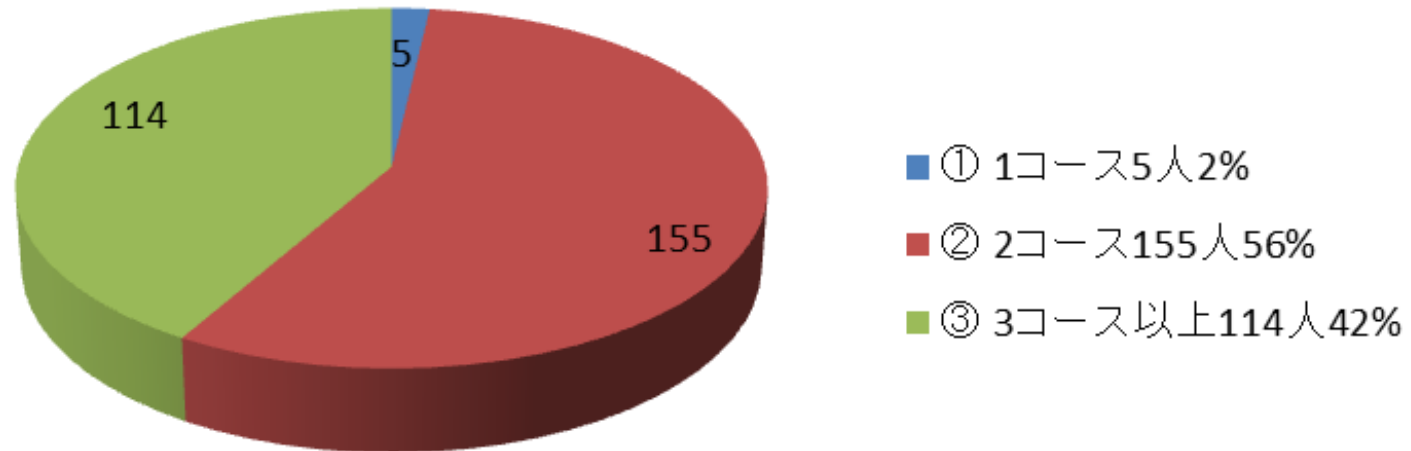
Q2. 周術期化学療法について(複数選択可能です)



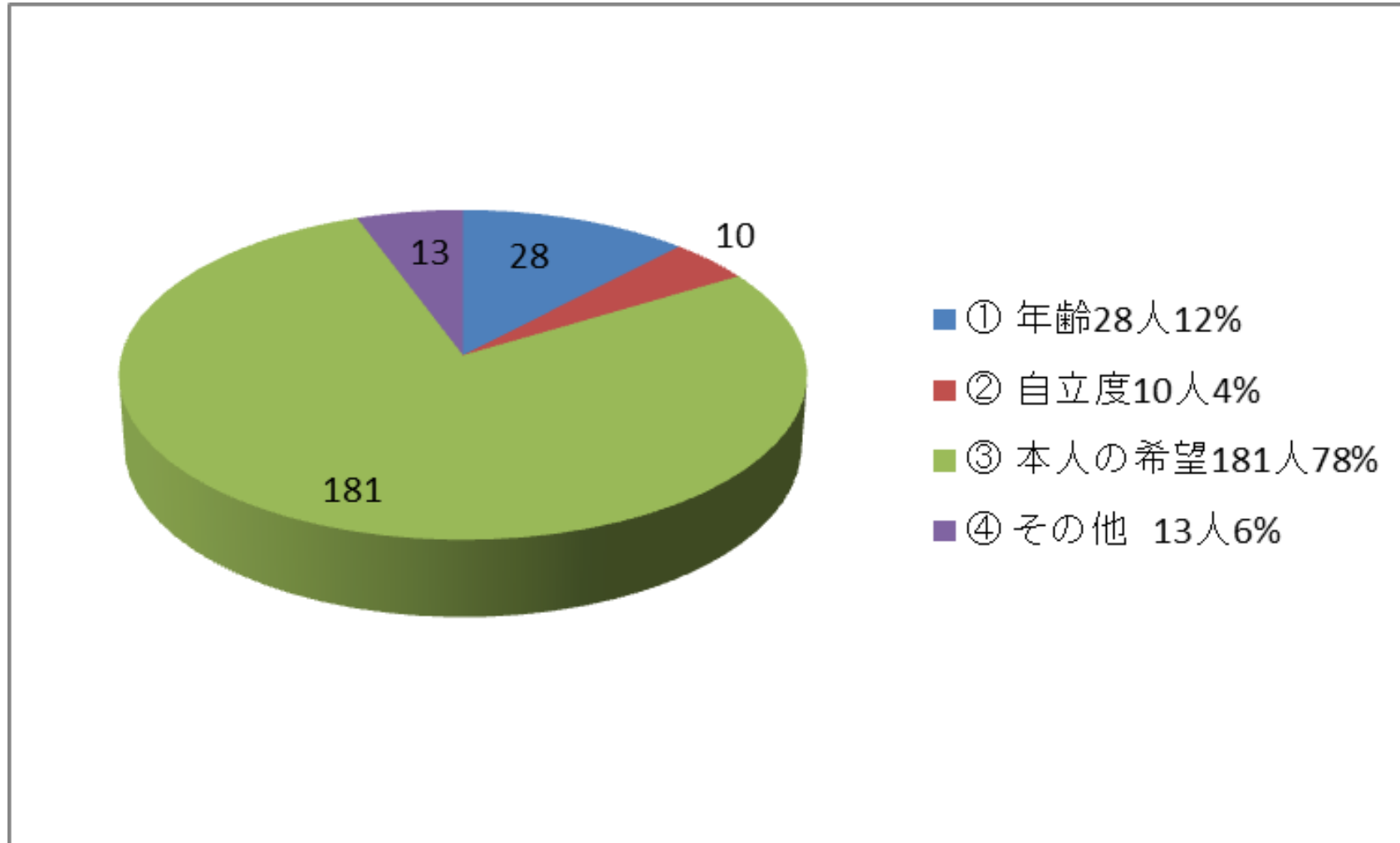
Q3. 術前化学療法を施行する, を選択された方に質問です. その理由を教えてください



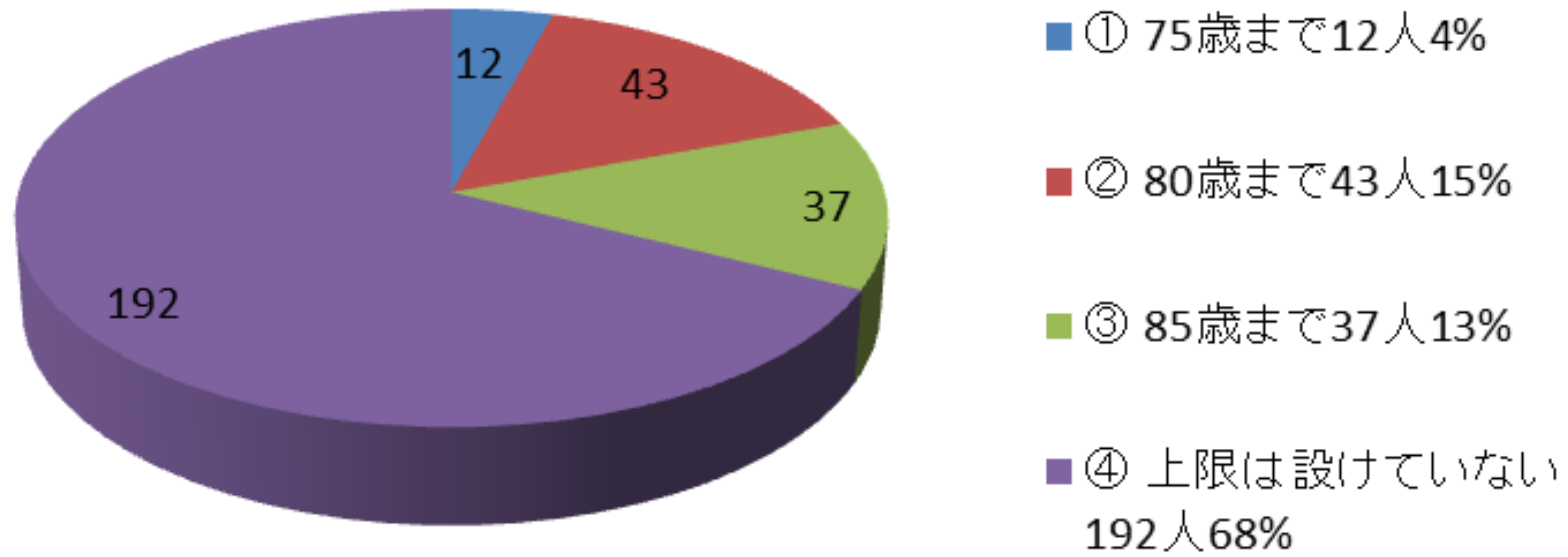
Q4.補助化学療法を施行する場合のコース数は？



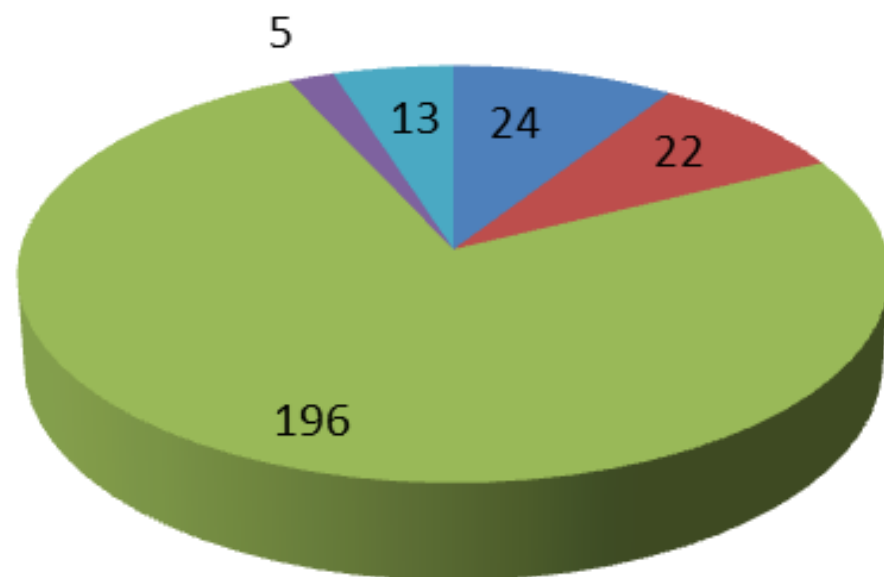
Q5.膀胱温存療法を選択する適応は？



Q6.膀胱全摘の年齢上限は設けていますか？



Q7.膀胱温存の方法は？



■ ① 放射線治療24人9%

■ ② 化学療法22人8%

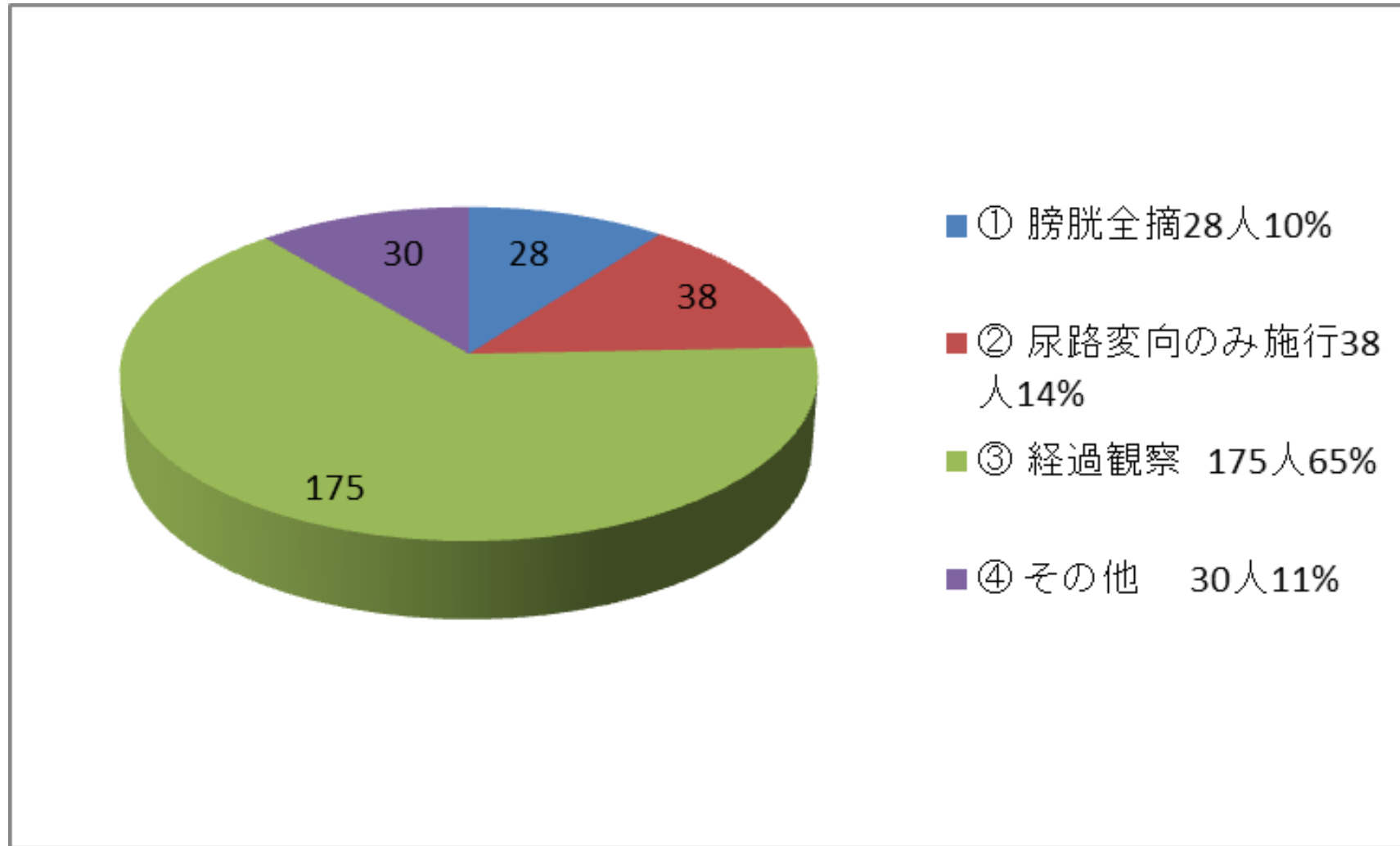
■ ③ 放射線+化学療法196人76%

■ ④ 膀胱部分切除5人2%

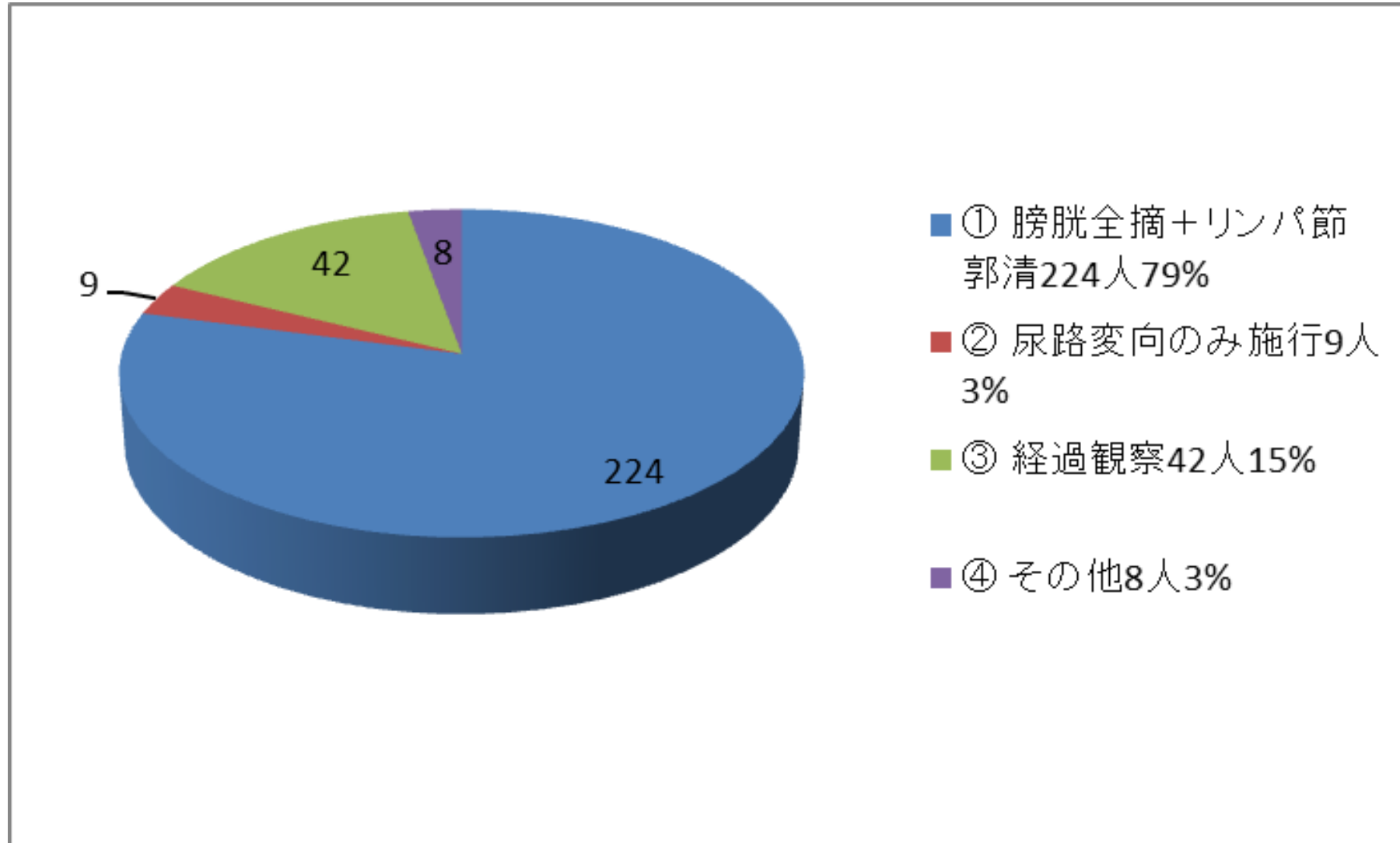
■ ④ その他 13人5%

転移を認める膀胱癌(STAGEIV)の治療について

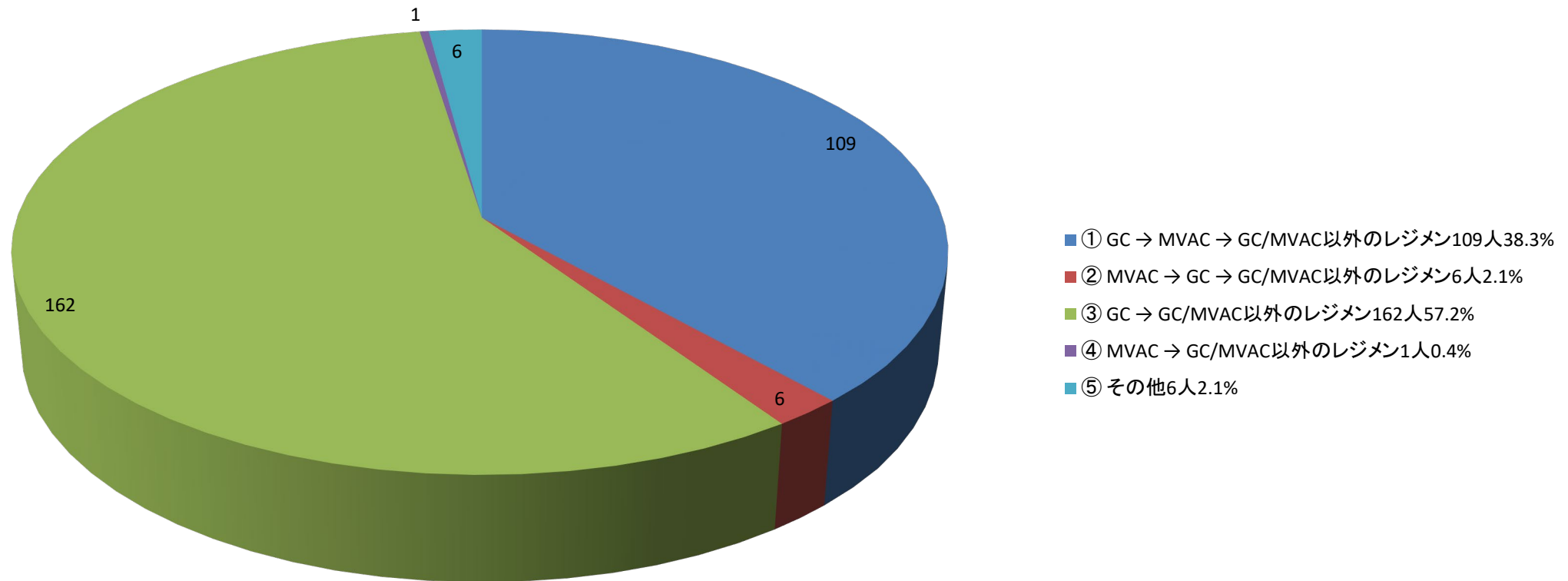
Q1.第一選択は化学療法の場合が大半だと思いますが，原発巣の治療はどうしていますか？



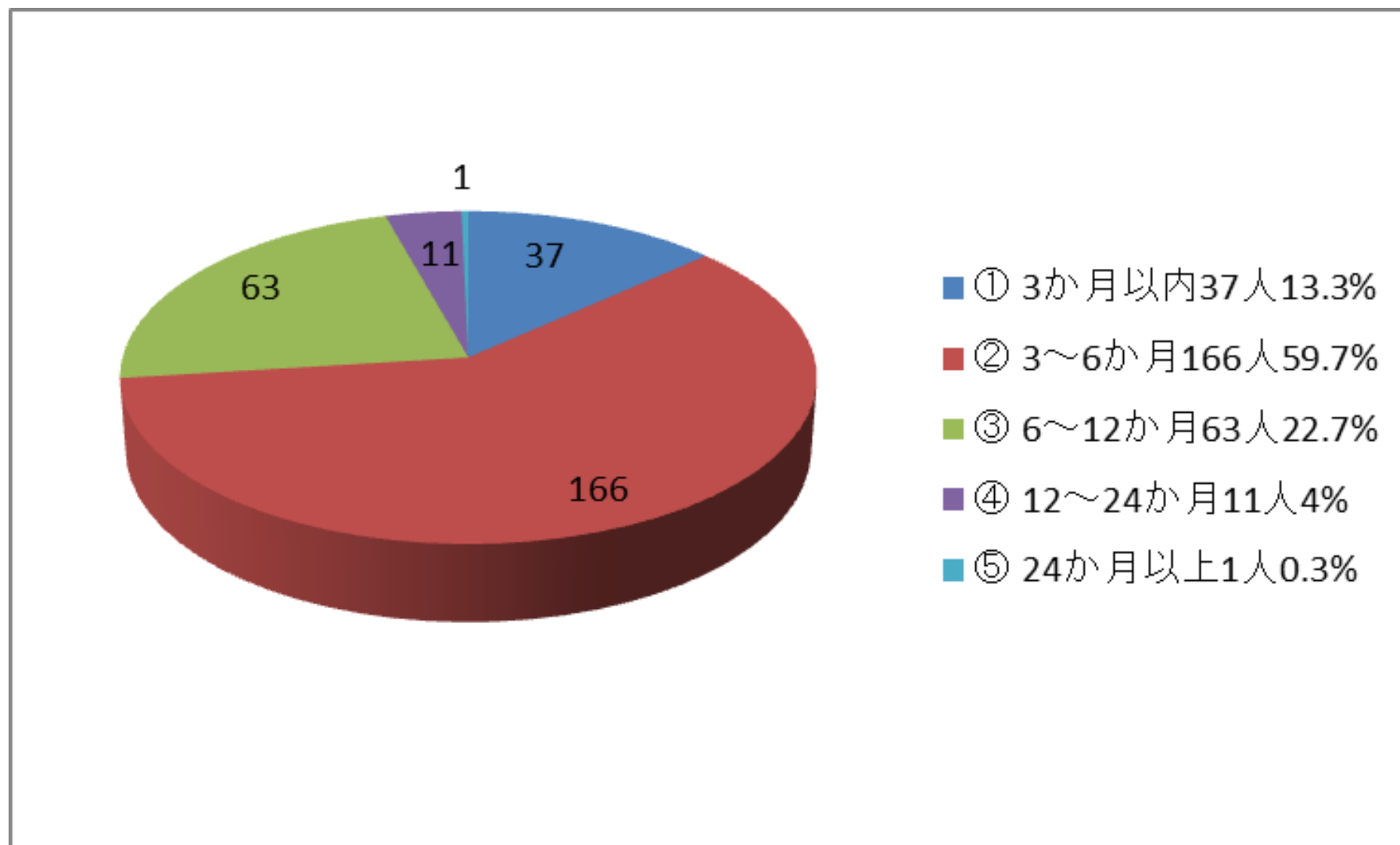
Q2.化学療法にて著明な縮小を認め、かつ病変が骨盤内に局限している場合はどうしますか？



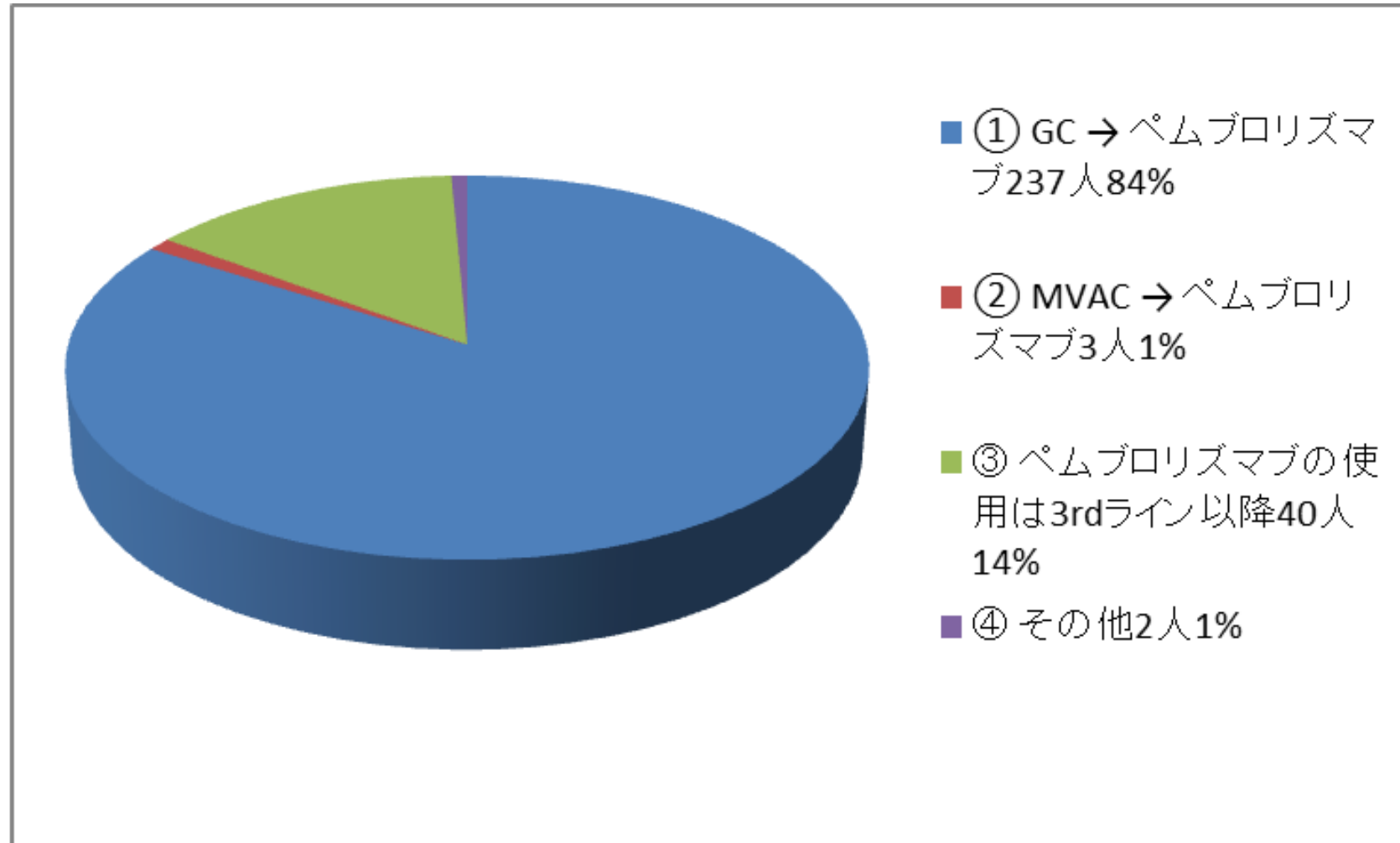
Q3.ペムブロリズマブが承認される以前の基本的な治療方針(1stライン →2ndライン→3rdライン)はどうでしたか？



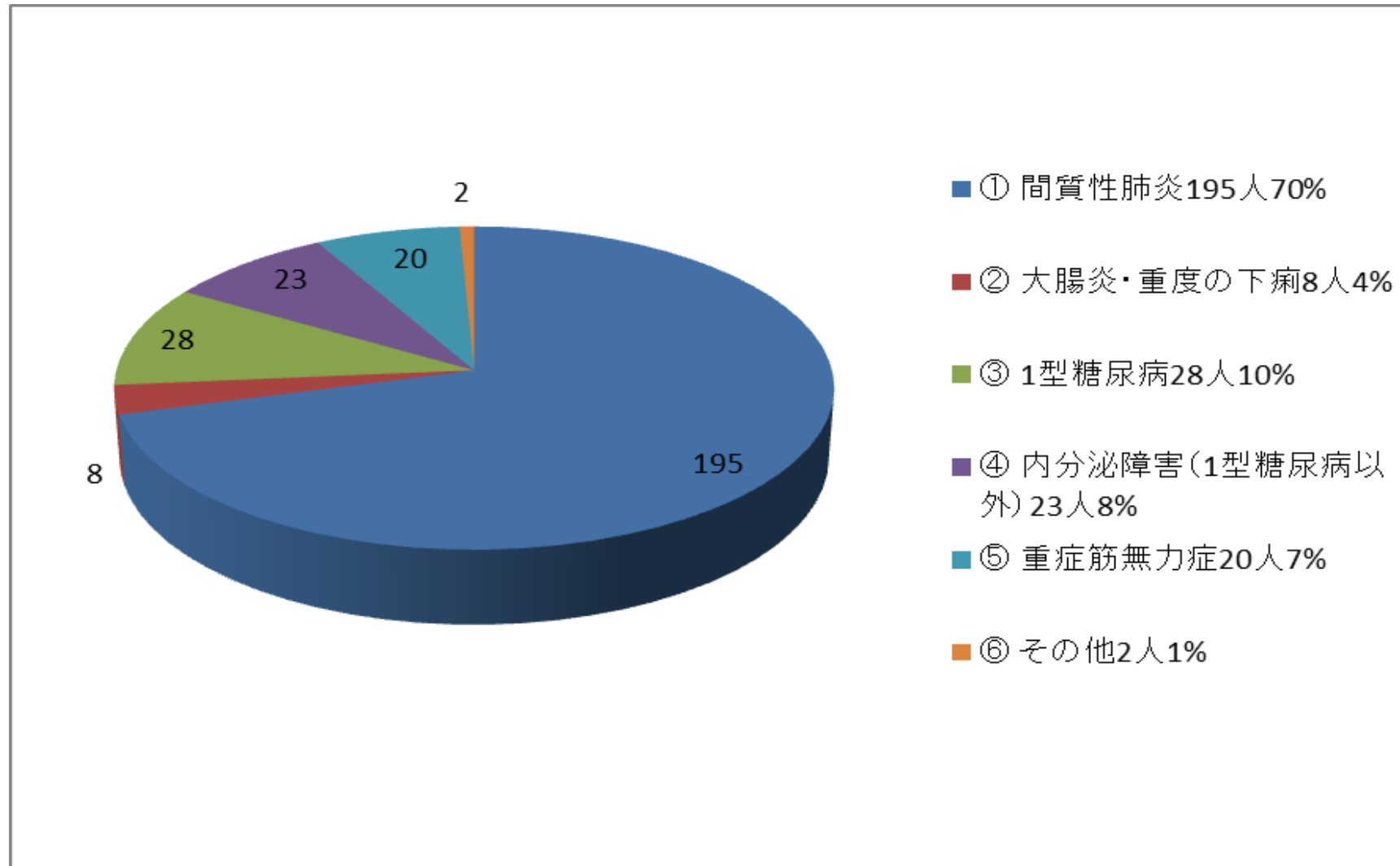
Q4.上記の治療方針で2ndライン以降の積極的薬剤治療期間はおおよそどれくらいですか？



Q5.ペムブロリズマブが保険承認されました。今後の治療方針(1stライン→2ndライン)はどのように考えていますか？



Q6.ペムブロリズマブの有害事象のうち、主治医として最も起こってほしくない有害事象は何ですか？1つ選んでください。



結果1

- 計284名から回答を得た。
- 筋層浸潤性で転移を認めない膀胱癌(Stage II, III)の治療について質問「第一選択となる標準治療は?」に対する回答は、膀胱全摘が96%を占めていた。周術期化学療法については、ほぼ全例で術前化学療法を施行:31%、Stage IIIのみ術前化学療法を施行:37%、周術期化学療法はほとんど施行しない:7%、Stage IIIのみ術後化学療法を施行:18%、ほぼ全例で術後化学療法を施行:5%、その他:2%であった。

結果2

- 転移を認める膀胱癌(StageIV)の治療について質問「第一選択は化学療法の場合が大半だと思いますが、原発巣の治療はどうしていますか？」に対する回答は、経過観察が65%を占めていた。
- 「ペムブロリズマブの有害事象のうち、主治医として最も起こってほしくない有害事象は何ですか？」に対する回答は、間質性肺炎:70%、大腸炎・重度の下痢:4%、1型糖尿病:10%、内分泌障害(1型糖尿病以外):8%、重症筋無力症:7%、その他:1%であった。